

上海⇄東京

## 子育てメール便 (4)

橋本 雅子  
津守 多実

まさことたみは東京の養護学校での仕事を通じて知り合った子育て仲間。まさこは夫、申屠（スンドウ）の出身地である中国上海に転居し、義父母と同居生活を始めた。まさこの子ども愛佳は未就園の三歳女児。たみの子どもクナは東京都心の幼稚園に通っている五歳男児。上海と東京、都会の子育てで二人が直面している、遊びの問題について語ります。

### 外遊びでの子どもの動き

まさこ「言葉のやりとりを補っために、体の動き方をよく見ています。実は上海で生活し始めてから、遊ぶのが最中の子どもものの体の動きが気になっています。

きつかけは追いかけて、上半身と下半身がちくはくした動きが目につきました。肩下げかばんのように両腕を揺らし、膝を曲げずに走る姿を不自然に感じましたが、同伴の親は気にしていませんでした。

ほかにも、健康器具をジャングルジムや登り棒にして、愛佳がよじ登る様子を見て、年長の子たちがまねしたことがあります。彼女より大柄ながら、私がお尻を持って体重を支えながら、足先や膝の動きを補助して、ようやく登れる子が何人もいました。大人の腰ほどの高さに、足で登りながら、腕の力で自分の体を持ち上げる動作

ができません。よじ登る体験が乏しいのでしょうか。自分の体の動き方をよく知らないように思えました。

たみ 以前、愛佳ちゃんはクナの後ろを追いかけて動きをまねていましたよね。愛佳ちゃんもクナも、能力を少し超えたことに挑戦するのが大好きでしたが、もっと年上の子どもの活発な動きには圧倒されていたことを思い出しました。

まさこ 今は逆で、愛佳の遊びをまねたがるのは年上の子が多いです。その子たち、走る、ボールをける以外は、ゆっくりとした動作で遊び、目新しい動きには慎重な様子も見受けられます。遊ぼうと

言っても、ベンチで父親に抱かれ

たまの男の子の前で、私たちが追いかけてこやジャンプをして体で遊ぶ楽しさをアピールし、誘い出したこともありました。わんぱくな時期の、小学校中学年の男の子の動きすら、抑制がきいていて、はめを外すような危なかしさはほとんど感じません。

ほかの小区でも、祖父母の散歩に連れられた幼児を見かけます。池や噴水、遊具、広場やまっすぐの長い道など、遊び心をそそられる場所を通っても、本物の車を模した電動カーにちょこんと座ったまま、自分から降りたがったり、歩きたがらないおとなしい様子

を、少し不思議に思います。

以前、申屠がブランコをこげないことを、個人差かしらと笑い話でしましたよね。ブランコ体験が薄く、運動好きで練習したものの、いまだに肩に力が入り、遊びこなすには程遠いです。その彼、幼いころは人民解放軍ごっこを称し、追いかけてこやかくれんぼをしたことが楽しかったそうです。

余談ですが、上海に来て、若者が滑り台を本気で遊んだり、歩道で楽しそうに追いかけてこする姿を見かけます。日本なら、レジャースポーツをするとき以外に見られない無邪気な様子は、遊びの体験が異なるせいなのでしょう

か、文化的な所作の違いなのでしょうか、ほほ笑ましくも珍しくもあります。

## 子どもの運動能力と大人のかかわり

まさこ 日本同様に、中国も子どもの運動能力の低下は問題視され、体育の授業を増やす案も出ています。

たみ 日本も中国も、保育的にはさまざまな考えがあったとしても、子どもの運動能力の低下には危機感をもって保育内容を設定しているということでしょうか。

クナの幼稚園では、大工仕事や手押し車での砂運び、氷鬼やケン

ケンなど、楽しく体を使って遊ぶ工夫が日常的にあります。体操教室に通っていて、跳び箱やマットで宙返りができる子がいる反面、著しく走り方がぎこちない子もいます。幼稚園の遊びの中では、運動能力が違ってても、一緒に遊べるように配慮しているのかもしれない。

まさこ 小区の大人は、「幼稚園でスポーツや体操や民族舞踊などでよく体を動かしている」と得意気に教えてくれます。私たち、中規模幼稚園のお迎え時の園庭開放を利用しています。時間帯や、園の規模に関係しているのか、個々にコンピカーなどの、遊具で遊ぶ姿

が目立ちます。子ども同士で走り回ったり、遊んだりする様子がほとんどなく、愛佳もほかの子を横目に、一人で遊具で遊びます。

中国の育児は乳児をハイハイさせず、抱いてばかりいると聞きます。年齢が上がるにつれ、ぎくしゃくした動きが目立たなくなるのは、幼稚園のカリキュラムや、遊びの体験が増えてくるからでしょうか。ただ、見聞きする家庭の様子からは、訓練的に個々に身体能力を高めることほどには、日常の遊びや、子ども同士で遊ぶことを大事なことでとらえていないように思えます。幼稚園を迎えに来た大人が遊ぶ子どもの腕を強く

ひっぱって、果物やヨーグルトを子どもの口に入れる姿を見ていると、遊ぶことよりも、「食べる」ことを優先している印象をもちます。

また、ほかの子と遊んでいる最中の孫を呼び、立ち話相手に習得した踊りを披露させたり、私に日本語を教えさせたり、むしろ教育熱心な日常をつかがわせます。子どもはつまらなさそうなのに、文句を言わず、言いつけどおりに動きます。

### 子ども同士の遊びを求めて

たみ 体の発達のためだけでなく、子ども同士で遊ぶことの中でしか得られないことがたくさんあ

るでしょう？

クナの三歳以前のことですが、私が体を使った遊びに誘うと、一緒に遊んでいた私が先生のようになっつまらなくなっていました。それが幼稚園に通い始めて、ほかの子の様子をずっと見ている期間を経て、そろりと子どもたちの中に入り始め、手をつないでぐるぐる回り、飛び跳ね走り、顔を見合わせて笑い合うようになりました。大人から「教えられる」ことよりも、子ども集団の中で引き出されていくもののほうが明らかに大きいのです。

友達と走り回っているクナの様子は、体中が楽しさで弾んでいる

と同時に、人と繋がって生きることの喜びを体感しているようにも感じられます。

まさこ きこちない動きの理由をいろいろと憶測するものの、ほかの子の遊びに惹かれ、自分も遊びたいと目を輝かす子どもの姿は、日本も中国も変わりません。愛佳と一緒に上海の子ども世界にとびこんで、つくづく思います。

たみ 愛佳ちゃんがほかの子とも遊ぶためにはどのような工夫をしていますか？

まさこ 新しい生活圏に慣れるまで母子でじっくり過ごそうと決め、一日の大半は、祖父や私と過ごす時間になっています。公的な乳幼



児向け施設がないため、子どもと出会うには工夫が必要です。休日は友人親子と会い、平日は公園や園庭開放を利用するほかに、夕方五時以降にとき、自宅前の小公園に子どもたちが集まる日があります。小区に隣接した幼稚園に通う、近所の年長児のようです。

ボールけりをしたり、集まっておしゃべりしたり、自転車やローラーブレードで一人遊ぶ子もいれば、時には親とバトミントンをする子もいます。同伴の祖父母はベンチに座り、賑やかにおしゃべりを楽しんでいます。

私が疲れていると、活気ある場

へ加わることに気後れしますが、行けば言葉たどたどしくも、私を介してやりとりが生まれ、顔見知りの子がいれば遊びに誘ってもらえます。愛佳はこのところ、中国語でなくては、相手に通じないということが腹に落ちた様子。言葉にかかわらず仲間に入れてくれるか、言葉がなくても一緒に笑い

合えるか、そこに勝負をかけているように見えます。無理なときは、あっさりするほど早くに自分の遊びを始めます。

子どもと会えず、がっかりした日には、夜の散歩に誘います。親子三人のときには大人と散歩に来たほかの子どもに声をかけます。

申屠に世間話で引き止めてもらう間、私と子ども二人、追いかけてこをして全力で遊べます。日本では一日の収束に向かう時間帯に、何とか、子ども同士の接点が生まれます。

確かに、大人が自分の生活ペースを変えてあれこれ整えなくては、子ども同士が遊べる機会をつ

くれない難しさはあります。ですが子ども同士の遊びの躍動感や活気は、どうしたって大人にはつくれません。遊びでひらめいた喜び、実現できた満足感、子ども同士で遊べた充足感は、子どもの全身にみぎります。それは身体感覚の要になり、ともにいる大人を力強く励ましてくれます。

**たみ** 大人が設定しないと、子ども同士が遊ぶことができないのはこちらと同じです。東京都心にあるクナの幼稚園では、さまざまなる理由から降園後に園庭で遊ぶことは禁止されていて、延長保育はなく、遅くとも二時には降園です。

園の前は大学の教室で、車の通

りもあり、子どもが遊ぶ環境ではありません。お迎えの後、子どもたち皆遊びたくてワーツと飛び出してくるのですが、はめをはずした子どもたちのケンカやケガが多く、幼稚園でせっかいい関係が築けてもくずれてしまいます。幼稚園の先生も、親も、園後に子どもたちの活力を受け止め、関係を深める場が必要だということはわかっていますが、帰り道に一緒になった子と遊びながら帰るのがせいぜいです。

児童館に友達と行くこともありですが、室内遊具や決められた工作コーナーを回ると、最後にはコンピュータに子どもたちが集ま

って、黙々とモニターを見つめ、これでいいのかと疑問を感じます。

母親たちの話題に上る体操教室は、若い元気な男の先生が子どもたちのリーダーになって鬼ごっこやマット遊びをさせてくれるとのこと。「お教室」でなければ鬼ごっこも存分にはできないこちらの状況です。愛佳ちゃん同様、ほかの子どもと一緒に走り回り、ともに笑い合うだけで満足なのに、そのことをかなえてあげられません。

津守（愛育養護学校、造形アート遊

びの提案・研究をしている）

橋本（元愛育養護学校、現在は母親

としてクリエイティブ保育を志す）